

### 指定管理者評価シート

#### 一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市縄文の森広場	
2	指定管理者	(公財) 仙台市民文化事業団	
3	指定期間	平成29年4月1日～平成34年3月31日	
4	施設の利用状況	《利用者数》 30,098人 (前年度比 102.5%) 平成28年度29,362人 平成27年度31,690人 平成26年度30,204人	
		《事業》 展示事業：常設展 (山田上ノ台遺跡の展示及び野外展示) 企画展4回 (年間テーマ「仙山交流」) 研究・調査事業, 普及啓発事業：縄文体験, 発掘体験, 講座, イベント	
5	収支の状況	《費用》	
		・ 指定管理者に支払った費用	62,655千円 ( 62,446千円)
		・ その他市が負担した費用	0千円 ( 0千円)
		《収入》	
・ 使用料収入	672千円 ( 729千円)		
・ その他収入	1,609千円 ( 1,709千円)		
6	利用者の声	《実施状況》 平成29年12月に施設利用者アンケート調査を実施している。 小・中学校, 町内会等の代表者の出席による運営懇談会を2回開催している。	

#### 二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野		所見	評価
I	総則	施設の設置目的に基づいた運営上の基本方針として、「人間と環境」を考えるランドマークとなることを目指すこととしており、職員が十分理解しているほか、利用者にも周知している。また、資料の保管, 調査・研究, 展示・普及啓発事業等とおして、本市の縄文時代を中心とした文化財の保護, 歴史文化の普及啓発と向上等の施設目的を達成している。	S
II	施設の運営管理体制	職員の勤務実績及び配置状況は適切であり、開館及び指定管理料の執行状況等も適正である。また、個人情報の保護や情報セキュリティ対策も十分である。事故防止等についても適切に対応されており、対応マニュアルやチェックリスト等を用い、安全管理やサービス内容等をチェックし、ミーティング等により職員間の情報共有を図っている。	S
III	施設・設備の維持管理	建物や設備, 備品が適切に維持管理され清潔さと安全性が確保されており、利用者が快適に利用できる状態が保持されている。仙台市環境行動計画に則り、省エネ・リサイクルに努めている。さらなる安全性の向上について、過去の事例等を踏まえて改善と再発防止対策が共有されている。	S
IV	サービスの質の向上	職員の接客マナー・受付状況ともに良好である。ホームページ・フェイスブックやパンフレット等による利用情報の積極的な提供とともに、利用者へのアンケートを実施している。また、施設のサービス水準は高い水準で確保されており、必要な研修への参加も行っている。苦情等があった場合には、対応策等についてその都度掲示するようにし、利用者に公表している。	S
V	施設固有の基準	協定書や仕様書に基づき適切に施設を管理すると共に、事業計画書に従って適切に事業を実施している。また、地域と連携したアウトリーチ事業への積極的な取り組みを行っており、近隣の学校や地域社会と良好な関係を構築しつつ発展的に事業を展開している。さらに、ボランティア会の活動も活発であり、体験学習のサポートや、まつり・コンサート等のイベントを協働で実施している。こうした活動の様子について、フェイスブック等を活用して積極的に公開している。	S

### 三 その他特に評価すべき優れた取組み

(指定管理者の優れた取組みを評価する 加点要素)

評価すべき取組み		取組み状況
1	学校教育・他機関との連携	<p>学校教育との連携では、本館である富沢遺跡保存館と連携して推進している「利用学習」を事業の柱の一つとして位置づけ、市内の小学校5・6年生を対象として定着させている。平成29年度の参加校は33校2,368人で昨年度よりも参加者が増加している。また、市内中学校の社会体験活動を行う職場体験は、4校14名を受け入れて実施したほか、学芸員資格を目指す大学生を受け入れた博物館実務実習では1大学1名が受講している。さらに教職員研修として13名の教員が研修を受講した。</p> <p>年4回、季節ごとに実施している「縄文まつり」のうち、特に縄文コンサートにおいても、プロの演奏家をはじめ、富沢小学校・人來田小学校・金剛沢小学校・上野山小学校・オカリナ縄文会と連携して演奏や合唱を披露していただいた。また上野山小学校土曜図書委員会・読み聞かせボランティアあめんぼの会による読み聞かせ事業を実施した。</p> <p>その他、山田市民センター・上野山児童館と連携した「火おこしをして、縄文スープを作ろう」、人來田マイスクール児童館と連携した「土面づくり」、上野山児童館での土器型クッキー作り・チョコ作りなどを実施しており、こうした地域連携によるアウトリーチ型体験活動に積極的に取り組むことで、施設の魅力を発信している。</p>
2	市民協働の推進	<p>利用学習時の体験活動や市民との交流を図るイベントなど、多様な場面で72名のボランティアスタッフが活動した(平成29年度実績:延べ454名・3,281時間)。体験活動のサポートや事前の準備作業、体験活動中の安全確保をはじめ、市民と館との間に立ち、両者をつなぐ役割を果たしている。</p> <p>また近隣の町内会・小中学校・児童館・市民センター・近隣施設などを対象とする運営懇談会を実施して意見交換や意思疎通を図っている。こうした取り組みにより、地域や関連団体との連携面でも有効な事業を継続的に開催し、発展させている。</p>
3	広報活動の推進	<p>親しみやすいデザインと子供向けの情報発信を意識したホームページに加え、平成29年9月からフェイスブックを活用して様々な事業や体験活動の情報をリアルタイムで発信し、施設の魅力を伝える取り組みを積極的に推進している。その際、閲覧状況を解析することで、いっそう効果的な情報発信に努めている。</p> <p>また、各種印刷物(ハナちゃん通信・イベントのご案内・パンフレット等)等の様々な媒体を駆使してきめ細かい広報活動に努め、地域への広報についても、近隣の各町内会等へパンフレット等を配布し、広報活動の充実を図っている。縄文まつりやコンサートの際には、近隣の小学校や施設を重点として配布活動を行っている。</p>
加点評価		A

### 四 評価総括

《指定管理者((公財)仙台市民文化事業団)による自己評価》	
<p>施設の管理運営に当たっては、施設所管課と協議を行いながら、協定書等に基づき適切に行っている。また、ミュージアム施設として適切な調査研究、普及啓発、資料の保管等に努めたほか、より多くの方に利用いただけるよう年間を通して様々な事業を展開している。</p> <p>平成29年度の利用者数は30,098人であり、前年度より約2.5%の増であった。今後も事業の広報に係る多様な媒体の積極的活用、テーマを十分考慮した事業の実施、地域や学校との連携などにより、来館者層の拡大を図っていききたい。</p> <p>当館の最大の特長である体験活動事業については、学校教育と連携した「利用学習」・日常の「随時体験」・様々なイベント体験・他施設での出前講座などを実施し、アンケート等により参加者から高い評価が得られている。これは職員の努力のみならず、事前の準備作業や体験活動中の安全確保やサポートなど、多様な場面で72名のボランティアスタッフが活躍し、その協力が得られていることによるところが大きい。ただし繁忙期を中心として、受付業務や体験活動が混雑する場面がみられた。そのため、受付業務マニュアルの改善、対応スタッフの連携強化など、効率化に努めたものの、スタッフ配置などの適正化も含めた検討がさらに必要と考える。</p> <p>企画展示事業については、「仙山交流」をテーマとし、春のコーナー展示「仙山交流in仙台-沼遺跡と出土遺物」・夏秋のコーナー展示「仙山交流in高畠-押出遺跡と出土遺物」・冬のコーナー展示「仙山交流in七ヶ浜」を3回開催した。</p> <p>普及啓発事業では「縄文講座」、「縄文まつり(コンサート含む)」、「週末体験講座」、「発掘調査体験教室」などを行った。「縄文講座」では、宮城県内外の専門家を招いて3回の講座を実施し、調査された縄文時代の遺跡や貝塚について学習することができた。「縄文まつり」では、体験活動、ゲーム、演奏会などを4回実施した。特に夏と冬はこれまで縄文コンサートを実施していたが、今年から縄文まつりの中にコンサートも一緒に行うことで近隣小学校の合唱部や吹奏楽部、市民サークルなどの演奏を行い、多くの来場者や参加者と演奏者の交流を図るイベントとして定着させている。</p> <p>事業団の自主財源事業としては「縄文のまつり復元と創造プロジェクト」(平成20年度から継続して実施)、学校・地域連携事業「縄文まるかじり」、野外展示「縄文の森」の多目的活用「森でみつめる『じょうもん』」の3事業を実施した。「縄文のまつり復元と創造プロジェクト」事業では、8月に探検家・石川仁氏とNPO笹舟の協力を得て、「草舟づくり」を広瀬川宮沢橋緑地公園で実施し、川に浮かべて乗船体験を行っている。さらに市民やボランティアと共に調査・研究と縄文楽器製作を継続して行い、10月には「縄文人の記憶の宴」として記念講演会とイベントを行っている。この事業は音楽・舞・食・火をテーマとして縄文時代をイメージした奏法で演奏家やボランティア・劇団員などが「縄文のまつり」を復元するイベント(音の宴・躍の宴・炎の宴)で「火おこし」や「縄文楽器の演奏」・製作した草舟を燃やし「炎の儀式」などを実施し、近隣の市民や関係者から好評を得ており、今後も継続して実施していく事業である。「縄文まるかじり」事業では、2月に「ドキ・土器チョコレイトづくり」と「土器を食べちゃえ!土器片形クッキー“ドッキー”をつくろう」を親子で楽しめるイベントとして実施している。「森でみつめる『じょうもん』」では、野外展示「縄文の森」の活用する事業で、近隣の太白小学校1年生を対象に専門家の指導のもと、太白山自然観察の森で植物の観察会とクリの種子を採取し、育てる事業を実施している。</p> <p>富沢遺跡保存館との連携については、合同ボランティア育成講座・互いの祭り開催時のイベントコーナー設置・企画展の連携・両館職員等の参加による専門研修・救命講習などを合同で実施した。さらに地域の市民まつりへの参加、地域施設間の連携事業を行いながら地域との連携事業を実施している。</p> <p>施設管理については、環境負荷の軽減を意識し、こまめな消灯・空調機器使用の見直しなどに努め、より軽減を図っていききたい。今後は、調査・研究を踏まえた一層魅力的な企画と効果的なPRに努めるとともに、本館である富沢遺跡保存館をはじめ、SMMA(仙台・宮城ミュージアムアライアンス)及び歴史ミュージアムネットワーク諸館等との連携と役割分担を図りながら、先史遺跡の公開・活用施設である当館の更なる活用推進を図り、ミュージアム都市実現の一翼を担っていききたい。</p>	

《施設設置者（仙台市）による評価》

施設の運営管理にあたり、指定管理者は協定書等に基づき適切に運営を行っている。また親館である富沢遺跡保存館と緊密に連携して事業を推進するとともに、施設設置者である仙台市担当課と指定管理者および施設の担当者が、市の事業推進や指定管理業務の課題解消について適宜調整を行い、協力して業務遂行に当たっている。

入館者数は概ね横ばい（前年度比で増加）であるが、類似施設と比べ豊富なメニューを誇る体験活動については、アンケートでもほとんどが「とても満足」「満足」と回答しており、これまでの着実な積み重ねが結果し、学校や地域の各団体をはじめ、県外にも定着してきたようである。こうした施設の特徴ある活動については、親館である富沢遺跡保存館の学芸員とともに本施設の学芸員が韓国の漣川旧石器祭に招聘され石器製作技術の披露を行ったことにも表れている。

屋内展示については、展示スペースの制約はあるものの、調査研究活動にもとづき良質な資料を集約して紹介する「コーナー展示」を継続している。「仙山交流」をテーマとした平成29年度は、仙台地域の歴史を紹介するとともに、縄文時代の幅広い文化の一端を示す効果的な展示を実施した。また屋外展示としての縄文の森の整備・活用についても、季節ごとの広場の特性を上手に取り入れた体験活動とリンクさせる形で、施設ならではの学習経験を来場者に提供している。来場者にとっても、この施設でしか味わうことのできない貴重な体験となっているようであり、リピーター利用や世代を超えた利用の可能性も徐々に確かなものとなってきている。開館から10年を超え、事業の定着から発展へとつながる大切な活動が、日々の努力によって継続されている点を高く評価する。

地域との関係においては、地域懇談会の開催等を基点としながら、学校や市民センター、児童館等と連携しており、確実に地域との繋がりが緊密化している。市民ボランティアによる活動も活発であり、こうした地域住民との良好な関係が、施設の継続的な維持活用と今後の発展の基礎となる貴重な財産となっている点も指摘できる。体験型学習を軸とした施設活動が、今後も様々な利用を呼び起こしていくことを期待する。

総合評価

S

◎ 評価担当課（施設所管課）：教育局生涯学習部文化財課